

「サラ・さらさ」の配布再開についてのご意見

ご意見	コメント
<p>① サラ・さらさ配布再開に賛成である。 配布時に多くの方がくるが、配布数が限られていることから、配布希望者全員にサラ・さらさが行き渡らないことが予想される。よって、多くの希望者に行き渡るようにしてほしい。</p>	<p>① 下水道の普及に伴い、サラ・さらさの原料であるし尿汚泥等は、年々減少しています。このため、地域の皆様に配布するサラ・さらさの製造量も減少している状況です。 また、配布中止前からも、サラ・さらさの希望者が多く、希望通りに配布できない場合もありましたので、配布を再開する場合には、より多くの希望者に行き渡るよう、配布方法を検討します。</p>
<p>② 配布にあたり、アピールのひとつの方法と 思い書いてみました。 例として基準以下のうえ、もし30坪に袋ひとつ入れたとすると、さらに下回るのではないのでしょうか。</p>	<p>② 配布を再開する場合には、適切な情報提供に努めてまいります。</p>
<p>③ 早期の配布再開を望む。(同様のご意見他2件)</p>	<p>③ 今後、皆様の御意見を参考に「サラ・さらさ」の配布再開を含め、検討していきます。</p>
<p>④ 長年(8年ほど)豊里地区に50坪ほど畑を借りておりました、健康のために作っていましたが、遠くて大変になり近くにと思い、4月より西部地区市民農園を借りることになり、喜んでおりましたが、長雨のせいもあるかと思いますが、水がつくので作物がだめになりがっかりしておりましたところ、上田広域でサラ・さらさのことを知り喜んでおります。…と申しますのは、豊里地区の頃も毎年サラ・さらさを使って良い作物が出来なくなった時は、残念に思っていました。 良い作物が出来るのでぜひ再開してほしいです。</p>	<p>④ 肥料として良い評価をいただきありがとうございます。今後、皆様の御意見を参考に「サラ・さらさ」の配布再開を含め、検討していきます。</p>
<p>⑤ 「サラ・さらさ」配布再開に賛成します。 基準に合格したものは、風評などに惑わされず有効活用すべきものと考えます。 東北の物産についても同様と考えます。</p>	<p>⑤ 今後、皆様の御意見を参考に「サラ・さらさ」の配布再開を含め、検討していきます。尚、配布再開する場合は、風評被害が出ないように、適切な情報提供に努めてまいります。</p>
<p>⑥ 公の機関が、国の基準の半分だからといっ</p>	<p>⑥ 農林水産省のホームページによれば、基準以</p>

<p>て、放射性物質が含まれる肥料を配布することは、その肥料によりできた作物を摂取することで内部被爆する恐れがあるので、やめてほしい。</p> <p>風評被害が起きる恐れがある。</p> <p>配布を再開すれば、私は、今後上田産の野菜を買いたくない。</p>	<p>内の肥料を施用した場合、玄米中の放射性セシウムの濃度は、食品の基準値より低い値であるとあります。</p> <p>尚、配布再開する場合は、風評被害が出ないように、適切な情報提供に努めてまいります。</p>
<p>⑦ 配布再開すべきである。</p> <p>国の定めた基準を大きく下回っており、何を心配して市民の意見を求めているかわからない。</p> <p>判断基準がないのであれば、市民の声を聴く必要があるが、今回のケースでは、清浄園の判断で実施すべきである。</p> <p>反対の人がいればその人は、配布を受けなければよいだけの話であるとする。</p>	<p>⑦ 今後、皆様の御意見を参考に「サラ・さらさ」の配布再開を含め、検討していきます。</p>
<p>⑧ はじめまして</p> <p>サラ・さらさ肥料のことをはじめて知りました、使ってみたいです。</p>	<p>⑧ 配布を再開する場合には、広報等を活用し、地域の皆様にお知らせをするとともに、適切な情報提供に努めてまいります。</p>
<p>⑨ 結論としての意見は”サラ・さらさ配布再開”に賛成。</p> <p>理由：ホームページの「清浄園の汚泥焼却灰に係る放射性セシウム濃度等の測定結果」をみると3年前には肥料原料の基準値を下回っており、2年ほど前から基準値の半分に以下になっている。新たな原発事故でもない限り、この数値が上がることは考えられません。</p> <p>ご承知のように¹³⁷Csの半減期は約30年、¹³⁴Csの半減期は約2年です。両者のベータ崩壊時のエネルギーは約1.2MeVです。</p> <p>自然界の放射線の一番の発生源であるカリウム40について、Wikipediaをみると次のようになっています。</p> <p>カリウムは、岩石に大量に含まれるほか、動植物にとって必要不可欠な元素である。食</p>	<p>⑨ 今後、皆様の御意見を参考に「サラ・さらさ」の配布再開を含め、検討していきます。</p> <p>また、配布再開する場合は、適切な情報提供に努めてまいります。</p>

品中にもカリウムが多く含まれ、白米 1kg 中の放射能は 33Bq、乾燥昆布は 1600Bq/kg、納豆は 200Bq/kg、豚ひれ肉は 120Bq/kg、牛乳は 45Bq/kg ほどになる。外洋の海水中には 1 リットルあたり 12.1Bq が含まれる。カリウムは水に溶けやすくナトリウムと似た性質を持ち、経口摂取するとすみやかに全身に広がる。生物学的半減期は 30 日とされる。人体が持つ放射能は、体重 60kg の成人男子で約 4000 ベクレルであり、これによる年間の内部被曝線量は、0.17 ミリシーベルト (mSv) となる。飲食で人体中に取り込まれるカリウム 40 の放射能は 1 日あたり約 50 ベクレルであるが、通常的生活においては体内の蓄積量が平衡量まで達しているため、人体中の余分のカリウムが排出されるのに伴って同等の量が排出される。

因みに 40K の崩壊エネルギーは約 1.3 MeV です。これはセシウムとほぼ同じです。このように普段の生活で食品から、汚泥焼却灰からでる放射線よりはるかに高い線量に曝されて、地球上に住む人間は生きています。”サラ・さらさ”は食品ではなく、肥料として使われる訳ですから人体に摂取される可能性は非常に少ないこととなります（限りなくゼロに近い）。従って、サラ・さらさを肥料として使うことで人間にたいする放射線の影響が増えるとは思えません。